

## 真の患者利益を若い世代に伝える

—若い歯科医師のための Oral Physician セミナー開催—

7月16日、山形県酒田市の日吉歯科診療所において、標記セミナーが約50名を集め開催された。熊谷崇氏（日吉歯科診療所）の提唱するメディカルトリートメントモデルを実践する Oral Physician としての歯科医師を養成すべく、本セミナーは、特に歯科大生、大学院生、未開業の勤務医、

歯科大病院勤務者等若い世代の歯科医を対象にしたもの。昨年6月、12月の開催に続き3回目となる。特筆すべきは、広く、若い世代に国際的なセンスで真の患者利益追求を考えてほしいとの主旨のため、参加費無料での開催という点である。

以下、参加者の声を紹介したい。

### セミナー受講者の感想

#### ●最初に出会ったものがその後を決定する

これからの歯科医師は、患者一人ひとりの生涯にわたるオーラルヘルスプロモーションを成功に導くため、治療技術のみならずメンテナンスを通じたプライマリケアおよび口腔のリハビリテーションを考えた包括的なアプローチで歯科医療に従事することが不可欠であると考えています。

そのなかで、歯科医療の本来の目的について、「人々が生涯にわたって口腔の健康を維持し、健全な機能を全うすること」だと述べておられる熊谷先生の数々の講演を拝聴し、実際にどのような形で目標とするメディカルトリートメントモデルを実践されているのかを見てみたいと思い、本セミナーに参加しました。そして、ワールド・スタンダードなオフィスの見学だけでなく、周囲の環境に触れ、メディカルトリートメントモデル実践にあたっては、まず環境作りが重要であることを実感しました。

また、特に印象的であったのは、「若い歯科医

師は生まれたばかりの雛鳥のように、最初に見た親鳥の考え方が刷り込まれる傾向にあり、最初に出会ったものの影響がその後を決定するため、最高の歯科医療とは何かを今の段階でよく考えてほしい」という熊谷先生の言葉です。大学病院で研修している身として、改めて患者に利益を与えられる歯科医療とは何かを考える機会となりました。

Oral Physician を目指し、患者の一生涯の口腔の健康に寄与するというコンセンサスのもと、メンテナンスを通じたプライマリケアを行い、多方面の専門医と連携し、エビデンスに基づいたチーム歯科医療に従事し、また患者に最高の歯科医療を提供するという大きな目標を明確にもち、State of the Art に答えを求め、常に学ぶ姿勢で歯科医療に取り組んでいきたいと考えています。

辻本暁正（日本大学歯学部付属歯科病院・卒後1年）

#### ●Oral Physician の考えをもつ専門医を目指して

私は、9年間大学のエンドの講座に在籍し、開業している先生からの紹介患者や学内の他科からの紹介患者のエンド治療を中心とした、DDS (Doctor of Dental Surgery) としての治療を行っていた。大学に在籍する間に、確かに歯科に関する知識（特にエンド）は増え、技術は向上した。しかし、日々エンドに関する勉強、研究、教育を行い、治療をしているうちに、その難しさを知り、歯髄疾患にならないような健全な口腔を維持することを目標としていくことが「歯科医療」なのではない





かと思うようになり、自分自身がこれからどういう歯科医師になりたいと考えているのか、何を目標しているのか、自問自答しつつ模索していたところ、熊谷先生の Oral Physician という考え方に出会い、セミナーの受講を決めた。

今回セミナーを受講し、熊谷先生の歯科医療に対する真摯な姿勢に感銘をうけた。「患者さんを尊厳する気持ち」「歯科医療に対する誇りと責任感」「学び続ける意欲」を診療哲学としてあげられていたことが印象的だった。Oral Physician についてもたいへんわかりやすく、そして熱く説明をしてくださり、またその話は経営戦略や歯科医療改革にまで及び、たいへん有意義なセミナーであったと思う。専門医と一般歯科医が連携して、Oral Physician として「健康を守り育てる診療室」をともにつくっていったらいいのではないかと考えている自分にとって、熊谷先生の紹介されていた GP、専門医、歯科衛生士で作る Dental Partner Office は理想の形に思われた。

私は、卒後 10 年目になる今年 4 月より大学を非常勤勤務とし、診療所で勤務することを選択した。大学のエントの教室での 9 年間を無駄にはしたくない。Oral Physician の考えをもつ専門医、もしくは、エントの得意な Oral Physician となるべく努力していくつもりである。

河西裕美（東京都・診療所勤務・卒後 10 年）

#### ●歯科医療への想いを取り戻した一日

勤務先院長である高橋周一先生の勧めから、このセミナーに参加しました。時間がゆっくりと流れるのどかな町並み。このセミナーがなければ、酒田の地を訪れることはなかったように思います。

日吉歯科診療所に足を踏み入れたとき、町並みとはまた趣を異にする活気に満ちた空気を感じました。清潔でさわやかな居心地の良さ、温かく迎えてくれているかのような雰囲気につつまれ、セミナーに対する期待感が湧いてきました。東京のビルの一室ではなく、ここを会場とされた意図を体感しました。

研修室に入り、私のワクワク感はさらに増しました。熊谷先生は、ご自身の臨床と日吉歯科診療所の現在までの歩みについて話され、さらに、歯科界の低迷は、従来の歯科医療システムの旧態依然たる部分の所産であり、本来、歯科医師あるいは医療を担う者として、患者を尊厳し、患者の利益を考え自ら研鑽すれば、その先におのずと術者の利益がある、それを具現化したモデルシステムがこの診療所であり、それを実践するのが Oral Physician であると、多面的に、余すところなく示されました。

そして、セミナー全体を通して、「若い君たちの目の前には大小さまざまな山がたくさんあるけれど、真に目指す山は、その向こうにそびえたつあの山である。ときに非常に険しい登山になるだろう。でもここに地図がある。そして私はここにいる。さあ、登って来い！」と激励を受けているかのようなでした。熊谷先生の「皆さんは私を超えていってください」という言葉に、単純な私は「よし、がんばるぞ！」と意気軒昂し、ワクワク気分一杯で会場を後にしました。

近年の歯科医療を取り巻く情勢に失意さえ抱きかけていたのですが、この日、歯科医師を目指したときの、卒業したときの、そして歯科医師免許を手にしたときの歯科医療に対する想いを思い出しました。目指すべき方向が明確になり、歯科医療に対する期待感を取り戻しました。この日を忘れず、歯科医師として歩んでいきたいと思えます。

福田多栄子（東京都・診療所勤務・卒後 5 年）

#### ●「予防歯科を中心とした歯科診療」をはっきりとイメージ

今年で卒後 6 年目を迎えましたが、大学病院の補綴科に残ったことから、これまでの私の診療目標は、複雑な歯牙欠損に対して、いかに口腔の機能、形態、審美を回復することができるかであり、

そのベクトルは補綴を中心として、ベーシックな診療からよりアドバンスなものへと向いていました。大学病院という特殊性も相まって、高度な歯科治療を必要とする患者に対して、高度な歯科診療を提供することができるように、高度な知識と技術を習得することに全力を注いできました。しかし、そうしたことの重要性を認識すると同時に、「このような複雑な補綴を必要としないような口腔健康を維持することができないか」という想いが常に念頭にありました。

そんな矢先に、知人の紹介により今回のセミナーを受講することができ、予防歯科分野において日本の先頭を走る熊谷先生にお会いすることができました。先生はまずはじめに、「人々が生涯にわたって口腔の健康を維持し、健全な機能を全うすること」、それが目標であると話されました。私が漠然と抱いていたものが明文化されていたことに、強い感銘を受けました。先生はこれからの歯科医師像（Oral Physician）の在り方、グローバルな視点に立ったワールドスタンダードという考え方、予防歯科の実践法、真の患者利益、そして、それらを実践していくうえでの医院運営法まで、自身の症例やデータを基にわかりやすく説明してくださいました。一つひとつがデータと経験に裏付けされた説得力のあるお話で、「予防歯科を中心

### ●次回「若い歯科医師のための Oral Physician セミナー」

開催日：2006年12月10日（日）

場所：日吉歯科診療所 研修室  
（山形県酒田市）

申込先：SAT 事務局

〒110-0004

東京都台東区下谷 3-13-5-6F

Tel. 03-5808-2505

Fax. 03-5808-2506

http://www.sat-iso.net

参加費：無料

※まだ若干の空きがありますのでお早めにお申し込みください。

※第5回は、2007年7月に開催予定です。詳細につきましては追って本誌にてお知らせいたします。

とした歯科診療」を、はっきりと自分の中で形づけることができました。今回のセミナーは、自分にとって新しい目標に向かっての第一歩となる、たいへん有意義なものでした。

岡田 淳（新潟大学医歯学総合病院・卒後6年）

## 国際レベルの歯科医院づくりへ向けて

### —第1回 Oral Physician チームミーティング開催—

熊谷 崇氏（日吉歯科診療所）主宰「Oral Physician セミナー」の受講者が一堂に会する第1回チームミーティングが7月29日（土）、30日（日）、山形県酒田市・東北公益文化大学にて、約400名を集め開催された。

1日目のセミナー受講者による熱気に満ちた発表に引き続き、2日目はISO9001取得プロセスにおける監査概要の解説、歯科衛生士部会「ハイジア」設立の経緯と歯科衛生士評価基準の発表、さらに、会場での模擬的な「内部監査」形式のディスカッションなど、中味の濃いプログラムが次々と展開された。最後にメディカルトリートメントモデルの実践に有効なツールとしてOHIS（本誌9月号で紹介しているDr. Roy C. Page 開発の歯周病リスク

判定ツール）が紹介された。このツールは、オーラルケア社によって日本語版の導入が開始される。

現在ISO認証歯科医院は20数軒。最終目標である国際レベルの歯科医院「SAT with ISO9001」認証はいまのところ日吉歯科のみだが、今後これに続く歯科医院が増えていくであろうことを期待させる会であった。

「Oral Physician」, 「メディカルトリートメントモデル」, 「SAT with ISO9001」についての詳細は、歯界展望2004年8月号「インタビュー：これからはOral Physician が患者利益を提供できる」, 2005年1月号「歯科構造改革論—成功する歯科医院の条件とは」, 2006年6~8月号「特集：メンテナンス・ルネッサンス」をご参照ください。